

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075500431
法人名	社会福祉法人 宮田福祉会
事業所名	照陽園グループホーム
所在地	〒822-0152 福岡県若宮市磯光2159-1 (電話) 0949-32-5100

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成21年9月29日
評価確定日	平成21年10月14日

## 【情報提供項目より】(平成 21年 9月 21日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 10 月 1 日
ユニット数	2ユニット
職員数	17 人 常勤 15人 非常勤 2人 常勤換算 12.2人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要(9月21日現在)

登録人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低 76 歳	最高 96 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮田病院 山近医院 まいん歯科 武田歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

照陽園グループホームはみどり豊かな丘陵地に立てられた2ユニットのホームである。隣接する介護老人福祉施設は開設から23年目を迎え地域に周知され、法人主催の恒例の夏祭りや運動会は地域住民の参加も多く、入居者や家族も共に楽しんでいる。ホームも隣組に加入し、地域の敬老会や草取りの行事の参加で地域と交流しているが、今年度は新たに年1回、地域の方々に健康や栄養相談会を実施して好評を得ている。運営推進会議での意見を反映しながら、「ゆっくり、ゆっくり歩幅をあわせて、楽しく、笑顔で一緒に生きていこう」の理念の下、担当制の活用で記録物の整備や生活暦、職歴などが十分に把握され、無理強いないケアや入居者からの学びが職員の会話から伺える。管理者は職員育成の為、プリセプター制を活用し離職の防止に努めている。地域同業者協議会の「GHみやわか」に加入し、当番で研修会の講師を務めたり、親睦会等で職員の交流や意見交換の機会が増えている。また、地域包括支援センターを中心として「徘徊ネットワーク」の取り組みも始まり、地域密着型サービスの体系が整いつつあり、認知症や認知症ケアのさらなる周知や向上が期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善点に優先順位をつけ、看取り指針の作成や接遇研修の実施など具体的に改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価を行うことで改善点を見つけ、職員同士で共有できるよい機会と捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、認知症に関する知見者、民生委員、市担当者、入居者、入居者家族などの参加で、ホームの活動状況、外部評価の結果や改善項目、処遇困難事例の検討、インフルエンザ対策など具体的に話し合っており、ホームの運営に活用している。出された意見は議事録に整備している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月、担当職員が受診結果や日頃の暮らしぶりを写真を添えて報告している。入居者の変化があればその都度報告し、職員の異動は紹介を兼ねて事後報告している。金銭出納帳があり、家族、複数職員の確認印がある。家族会はないが、夏祭りや運動会に家族の参加があり、意見を聞いている。重要事項説明書に、行政及びホームの苦情相談窓口を明記し、玄関ホールに意見箱を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣組に加入し、草刈や敬老会に参加している。法人全体で行う夏祭りや運動会、餅つきに近隣住民や入居者家族も参加しており、七夕祭りに保育園児と共に参加したり、地域の盆踊りの参加や山笠の巡行も恒例行事となり入居者は楽しみにしている。今年から、ホームに一日地域の方を招待し、看護師が健康や栄養相談を実施し喜ばれている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程や契約書に地域密着型サービスの方針を明記し、ホーム独自の理念の「ゆっくり、ゆっくり歩幅をあわせて楽しく 笑顔で一緒に共に生きていこう。」を事務所やホールに見やすい字で掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念が見やすいところに大きく掲示されており、毎朝勤務者一同で唱和することで、入居者と共に生きていこうを実践し、職員もホームの理念を自分の言葉で語る事が出来る。職員は笑顔絶やさず、寄り添うことで利用者に安心して過ごしてもらうよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に加入し、草刈や敬老会に参加している。法人全体で行う夏祭りや運動会、餅つきに近隣住民や入居者家族も参加しており、七夕祭りに保育園児と共に参加したり、地域の盆踊りの参加や山笠の巡行も恒例行事となり楽しみにしている。今年から、ホームに1日地域の方を招待し、看護師が健康や栄養相談を実施し喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ優先順位を話し合い、災害対策や見取り指針の作成、高齢者虐待防止マニュアルの整備など具体的に取り組んでいる。職員は自己評価を行うことで、更なる改善項目を見つける良い機会と捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、認知症に関する知見者、民生委員、市担当者、入居者、家族代表等が参加している。ホームの活動状況、外部評価の結果や改善した項目や処遇困難事例の検討やインフルエンザ対策について話し合っている。安全な外出時間の工夫など、出された意見は議事録に整備し、ホームの運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は前年以上に密になり、域包括支援センター中心に徘徊ネットワークが発足している。自己評価や外部評価結果を届け、市主催の福祉祭りに参画している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度の研修会に参加し、研修内容を職員に伝達している。成年後見制度や地域権利擁護事業に関するパンフレットを整備している。また、入居時本人や家族に成年後見制度の説明を行い記録を整備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年3回「ホームたより」を送付し、毎月担当職員が入居者の日ごろの暮らしぶりを写真を沿えて報告している。協力医療機関で健康を管理し、入居者に状況の変化があればその都度報告し、記録を整備している。職員の異動は採用後、紹介を兼ねて報告している。金銭出納帳が整備しており、家族、複数職員の確認の捺印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、ホームおよび公的機関の苦情担当窓口を明記し、ホールに掲示している。また、ご意見箱も玄関に設置している。2ヶ月に1回家族懇談会を開催している。運動会、夏祭りに家族の参加があり意見を聞く機会にしている。家族等の意見は連絡帳に記録し、状況に応じて職員会議で検討し対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用者にはまず入居者との馴染みの関係になるまで担当を持たせないようにしている。新任職員にプリセプターとして先輩職員が担当する仕組みを作り、不安の軽減に努めている。職員が相談しやすい職場環境を作り、離職を防いでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	ハローワーク、求人情報誌を活用しているが、特に採用基準はない。定期健診も年に2回行っており、法人全体で服務規程・就業規則・雇用契約書を整備している。職員の休養室を設置して休み時間を確保している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	年度当初、職員全体会議で法人の倫理綱領に基づき、言葉使いを含めて接遇・人権の学習を実施している。運営規程や契約書に利用者の権利10か条が掲げられ、身体拘束虐待防止・プライバシー保護・個人の尊厳が明記されている。身体拘束虐待防止マニュアルを整備し、研修を実施し研修報告書を整備している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の年間研修計画があり、新任・現任職員の研修が実施されている。外部講師による接遇研修や先輩職員のプリセプター制を導入するなど積極的に育成プログラムを取り入れている。外部研修の参加後は申し送りなどで受講内容を伝達し、受講記録も整備されている。職員の悩みや相談は、管理者と元婦長の看護師がスーパーバイザー的な役割を果たしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度より宮若市のグループホーム協議会に加入し、年間計画に沿って管理者や職員が毎月定例会議や研修会に参加し、サービスの質の向上に役立っている。宮若市主催の福祉祭りに共同参画したり、当番で講師を務めて相互に学習しあったり、親睦会等も開催し、職員の交流や意見交換の機会が増えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には慣れるまで家族に付き添ってもらったり泊まれる様にして居る。併設法人のデイサービスを利用してからの入居が多く、ホームの所在に馴染んでいることが多い。急な入居の申し込みには、在宅で担当の介護支援専門員から情報を多く取り入れ不安のないように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「楽しく、笑顔で一緒に共に生きていこう。」の理念の下、職員は得意分野での能力発揮に努めており、「今日はきつい。」と出来ない振りをして、職員に肩もみをお願いして甘えたり、対応を楽しんでいる。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が把握した生活暦を介護記録に詳細に記録しているので、他の職員も職歴や出生地が口頭で述べられるほど生活暦を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が包括的自立支援プログラムを活用し行動を分析し、チームでケアに活かしていけるように担当者会議を重ねている。入居者の状況や要望は入居時や計画見直し時に確認し、計画同意の署名がある。長期入居者が多く、生活が安定している為か、担当者会議に家族が出席していない。	○	入居者と貴重な時間を共有するためにも、家族訪問時に担当者会議を設定し、チームの一員として担当者会議の参加を工夫されては如何でしょうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定更新や3ヵ月毎、状態に応じて計画の見直しを行っている。担当職員は月末に介護計画のモニタリング、評価を行っている。見直した計画を入居者、家族へ説明し同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、主治医や協力医療機関の受診支援、自宅への送迎、馴染みのスーパーへの買い物の同行など隣接する社会福祉施設の協力を得ながら支援している。また、居室での家族の宿泊も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期、臨時受診で健康管理を支援している。入居者や家族から他の医療機関受診の希望がある時は、柔軟に対応している。受診結果は家族に報告し、記録を整備している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、入居者や家族、主治医、職員との話し合いを十分に実施している。重度化や看取りに関する指針やマニュアル、同意書を整備し、緊急時の対応についての同意書、入院の判断基準の確認票を作成している。急な入院に対応できるように「入院セット」を準備している。ターミナルケア研修会に参加し、伝達講習をした記録がある。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護について入居契約書や職員契約書に明記されている。管理者は入居者・家族に個人情報の利用目的について説明し、同意を得ている。人権の尊重について研修会に参加し、職員は常に笑顔で穏やかに入居者に対応している。接遇の研修会を外部講師を招いて行っており、処遇会議で言葉使いや尊敬の気持ちを忘れないように指導している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	決して無理強いせず、一人ひとりの状態、各入居者のペースに合わせた柔軟な対応でオムツはずしを実践し、状況に応じてベットの位置も工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力を活かしておもいおもいのペースで食事が楽しめるように、食器やセッティング方法を工夫したり、法人内の栄養士に相談し、食形態を工夫している。法人全体の給食を利用しているが、日曜日の手作り昼食で、稲荷すしやソーメンなど入居者の希望する食事づくりを行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回は入浴できるように支援しているが、A・B各ユニットの入浴日を交互に設定している為、毎日の入浴も可能である。入浴介助の電動リフトも整備され、ADLが低下してもなるべく入浴を楽しめるように取り組んでいる。入浴できない場合は足浴・清拭で保清し、入浴拒否にはアプローチを工夫している。		
がて					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の得意な入居者や漬物が上手な入居者から指導を受けたり、職歴・生活歴を活かして草取りや野菜づくりなど得意分野が発揮できるような生活援助をしている。デッサン、貼り絵、書道やテーブル拭き、モップかけなど出番を作り支援している。毎年保育園児と七夕の飾りつけを全員で楽しんでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事(外出)計画を立て、初参りや季節の花見や地域の火渡りに参加したり、文化祭、敬老会に同行している。また、天候や体調にあわせて、近隣の散歩や毎週日曜日に好みのお店へ買い物や郵便局へ同行している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、鍵をかけないで職員が目配り・気配りに対応している。不審者の侵入防止や離園者の防止の為、リビングの引き戸に目立たないように補助鍵をつけるように行政から指導があった。交番や消防、近所の方にも協力を要請している。外出傾向のある入居者には職員が個別に対応し、安全を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼間、夜間を想定し避難訓練が行われており、消火器の設置、非常災害時マニュアルが整備されている。非常時、応援職員の到着時間表が整備されている。隣接する老人福祉施設に米・缶詰・オムツなどを備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を作成している。法人の給食を利用しており、一日1400Kcalの食事を提供している。食事摂取量の少ない入居者には、栄養士のアドバイスで栄養補助食品を利用している。入居者の咀嚼や嚥下状態に応じて粥食やきざみ食、ミキサー食で栄養摂取を支援し、毎食の食事量、水分摂取量を記録している。スポーツドリンクをうすめに提供するなど、一日1000mlの水分摂取を促している。体重測定は月1回実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑豊かな花壇がユニットごとに設けられている。玄関から続く共有空間は観葉植物が置かれ、広々としており、パーテーションやソファを利用し、読書好きな入居者の書斎のようなスペースがあったり、リハビリテーションの器具や階段などが置いてあったり、テレビ横には思い出のアルバムがあり、時間を共有しながら思い思いに過ごせる工夫がある。床材はクッション剤を使用し、余分な音を響かせないようにしている。対面式キッチン職員と入居者が協同で食事づくりが出来る様にゆったりと作られており、家庭的な雰囲気をかもし出している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、トイレ、洗面台、クローゼットが備え付けられ、ゆったりとした間取りである。希望者には冷蔵庫を設置し、お茶やスポーツドリンクなど好みに応じて保管することが出来る。入居者の持ち込んだ仏壇や、家族写真などが飾られており、家族の暖かさが伝わってくる居室づくりをしている。		